

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡—太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046
◇
<https://sanken-hiroshima.org/>

一口メモ

▼恵みが落下
探勝路でバリツ。踏み潰されたトチの実が秋を告げる。地元の人が

私たちはトチ林へ入り拾い集める。実は水に晒し、天日干しされる。その光景は正面口の秋の風物詩になっている。

昔ながらの十工程を経て熟成させ、餅米と一緒に蒸してつきあげ。十月、土産物店に特産「椀餅」が並ぶ。

インタープリター養成講座 高校生ら26人が受講

自然の価値を伝える技術学ぶ プログラムを作成 現場で体験

自然の価値を楽しく伝える技術を学ぶ、インタープリター養成講座が九月一日、二日の両日、三段峡ホテルと正面口から寺ヶ瀬までの区間を使って開かれた。講座はマツダ財団の助成を受けた事業。



寺ヶ瀬で川嶋氏(左)の説明を聞く受講者

講師は日本の自然体験型環境教育をリードしている公益社団法人日本環境教育フォーラムの川嶋直理事長。アシスタントとしてNPO法人ひろしま自然学校の志賀誠治理事長が加わった。加計高校生から七十歳代までの二十六人が受講した。川嶋理事長は三段峡について「細い道が続く、講座開催に不安はあったが、所々

にアクティビティのポイントがあり、景観も美しい。環境教育の場として活用でき、優秀なエコツーリズムのフィールドだ」と評価した。一日目は大雨のため予定を変更し午前は座学、午後はインタープリテーションの体験と受講者三、四人が班に画づくりに取り組んだ。二日目は、二グループに分かれて互いのプログラムを現場で体験しあった。



中秋の名月の9月23日は、「清掃歩く会」と「黒淵観月会」のダブルイベントの一日になった。

9人が探勝路清掃 通行支障が数か所

清掃は餅ノ木—三段滝間。さんけんメンバー6人と組織基盤強化研修で知り合った人ら3人が参加した。7月の豪雨で土砂崩れが多発し、管理が行き届かず、数か所で通行に支障がある。継続的な清掃活動と行政による復旧が必要だ。

黒淵で中秋の名月 特別な一夜過ごす

「黒淵で見る月はとても綺麗なよ」と聞き、さんけんの有志4人が黒淵観月会を開いた。黒淵荘スタッフを見送り、中秋の名月を待った。月は姿を見せなかったが、漆黒の黒淵が銀光に染まった。帰路は危険なため、1室を開放してただいて宿とした。電灯はなく、忘れられない特別な一夜を過ごした。

締めそうになったが登り切った。達成感がある」と、疲れた表情ながらも笑顔を見せた。「楽しさは病みつきになりそう。事業化を進めたい」と、本宮宏美事務局長は期待を込めた。

展示素材を観察 ビクターセンター用

三段峡ビクターセンターに展示する素材を探す講座が九月二十九日、西中国山地自然史研究会の佐久間智子専門員を講師に開かれた。

夏ツアープログラム研究 十方山ウラオネ谷で「沢登り講習会」

「沢登り講習会」が九月十九日、十方山のウラオネ谷で開かれたII写真。夏のツアープログラムの研究が目的。講師は広島山岳会員でもある、さんけんの大田由孝会員と村上友香賛助会員。さんけんから三人が受講した。沢谷や沢の歩き方、ロープワークを使って登る方法、懸垂下降技術を学んだ。クライマックスは三段の滝。先を登る大田講師のロープを頼りに受講者が続いた。瀬尾淳理事は「滝の途中でな植生を知らせるのが狙い。

南峰と歩く

⑭

黒淵(くろぶち)

渡船勧めた南峰 峡内有数の景勝

正面口から約三キロ、兩岸に松などを纏った岩壁が屏風のように屈曲しながら続き、深く静かな淵を囲んでいるのが黒淵である。初夏にはウチヨウランやセッコクが咲き、紅葉が絶景。峡内で最も著名な景勝の一つと言え、観光客の多くが目指すポイントになっている。

■地元歌に黒淵の名
江戸期の文献に記載はない。熊南峰を三段滝へ案内した餅ノ木の榊見府市が、地元で伝わる「柴木奥には名勝があるよ水昌黒淵龍ノ身である。当時の地図には「ハクウンテイ」とある。

■七兄思い目頭熱く
熊という珍しい名字、住所は南峰の故郷、愛媛県松山市だった。常市は南峰の兄弟で

県のスキー競技に貢献

齋藤 更生さん



熊南峰とともに三段峡を世に広めた齋藤露翠の孫。82歳。小学校1年から終戦の夏の4年まで、露翠夫妻と横川小学校の教員宿舎で暮らした。「学校では厳しい先生、家では普通のおじいちゃんと孫の関係だった」と当時を振り返る。雪深い横川に暮らし始めた年、露翠からスキー板を買い与えられた。国体へスキー選手・監督としてそれぞれ2回出場し、広島県の冬季スポーツに貢献。法務局に入り、要人の三段峡ガイドを頼まれるなどした。「恐羅漢へは毎年通っている」とまだまだ現役だ。(炎)

この人